A スクール・ミッション

自ら学び、考え、主体的に判断できる力を養い、個性豊かで責任感のある人材、科学技術教育をとおして、常に創意工夫への情熱を持ち創造力あふれる人材の育成を目指して、人づきあいの力、努力する力、考える力を育むことにより、社会の一員として自覚があり、様々な分野に高い探究心をもった工業人を育成します。

B スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

「社会人としての自覚をもち、様々な分野に高い探究心をもって、ものづくりに貢献できる工業人」を育成します。そのために、次のような力を身に付けさせます。

- ① 人づきあいの力として、他人と協力し物事を成し遂げる力やルールやマナーを守り、社会の一員として行動ができる力を身に付けさせます。
- ② 努力する力として、物事に進んで取り組む力や他人に働きかけ巻き込む力及び目的を設定し、確実に行動する力を身に付けさせます。
- ③ 考える力として、現状を分析し、目的や課題を明らかにする力や問題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力及び新しい価値を生み出す力を身に付けさせます。

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

基礎的・基本的な学力の定着を図るための必修科目及び、様々な分野で高い探究心を身に付けるために必要な選択科目を設置します。工業（機械・電気・電子）に関する専門教科を座学だけでなく実習等の実技をとおして協働的、実践的、体験的に学び、技術・技能の習得を段階的・計画的に行います。また、課題研究など協働型・問題解決型・探究型学習をとおして物事に進んで取り組む力や問題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力を育成します。

(3) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針「期待する生徒の姿」）

本校の教育方針を理解し、

- ① 将来の目標に向かって、基礎的な学習内容や、社会で必要とされる知識・態度を身に付けようと努力する生徒。
- ② 工業（機械、電気、電子）の学業に積極的に取り組み、ものづくりや資格取得などに目的意識をもって取り組む生徒や働きながら学ぶ意欲がある生徒。
- ③ 思いやりがあり、自ら進んで社会に貢献し、決められたルールや時間を守り、仲間と協力しあえる生徒。

これらのことについて、入学後も積極的に取り組む意欲のある生徒を求めています。

C スクール・ミッション並びにスクール・ポリシーに基づき、以下に学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

上記、スクール・ミッション並びに3つのスクール・ポリシーに基づき、生徒が、自分の生き方・在り方を主体的に考え、将来にわたって追究する夢を見だし、その実現に向けた企画を実施する学校。

人生のキャリアデザインの基礎的な4年間として、本所工科高校での学校生活を位置づける。

(1) 工業科の存在意義を確認できる教育の推進

都立工業高校の全体の応募状況から、本来の工業科としての存続意義が問われている中、本校を必要とする生徒に対して、必要最低限の知識・技能、社会人に必要な人間関係力、しっかりとした技術力を身に付けさせる。

(2) 生徒満足度の向上とそれによる本所工科を卒業して良かった言わせられる教育活動の推進

キャリア教育として育成すべき、基礎的・汎用的能力（人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）や社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）をあらゆる機会（授業、学校行事・特別活動等）を通じて育成する。自分自身で、将来のキャリアをデザインできる教育活動を推進する。

II 中期的目標と方策

パラダイムシフト（社会の価値観、あり方の劇的な変革期）を意識した学校経営を実行に移す。これまでの過去の成功体験や前例踏襲から脱却し、STEAM教育の実践、SDGsを意識した教育活動の実現だけでなく、AI時代に対応した、これからの我が国を担う「人財育成」をするために、リーディングスキルの向上や、2040年以降の社会を見すえた持続可能な社会の創り手の育成を意識した、国の「第4期教育振興基本計画」（2023年6月）や「東京都教育ビジョン（第5次）」（2024年3月）、東京都教育施策大綱（2025年3月）の実現に向けた教育活動を実行する。

そのためには、以下の4つの教育実践に、全教職員が一丸となって取り組んでいく。

- (1) Tokyoスマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現を目指す。そのために、これまでの学校組織の在り方を見直し、企画調整会議や職員会議の効率化、「今までとは違う」という発想を排除し、フレキシブルな観点から教職員の意識改革を図る。
- (2) 新学習指導要領に基づきカリキュラム・マネジメントの実践により全教職員が一斉授業の知識注入型教育、「正解主義」「同調圧力」から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」（パッシブからアクティブ）な授業展開を行い、自ら考え、課題解決ができるような学力を育成する。
- (3) 教育活動全体を通して、生徒が活動する場面を多く設定することで、知識・理解、暗記力を問う教育ではなく、思考力・判断力・表現力・創造力・洞察力の育成や「ことの本質を見抜く力」の育成、コンピテンシーベースを常に意識した教育活動を行う。
- (4) 東京都教育ビジョン（第5次）を具現化した教育活動を実行する。
 - ① 基本方針2にある「Society5.0を切り拓くイノベーション人材を育成する教育」や基本方針4にある「主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育」の実現のためキャリア教育に力を入れる。
 - ② 基本方針5にある「豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育」の実現のため、いじめの早期発見とその対応、SOSの出し方に関する教育等、いじめ防止の対策や自殺対策に資する教育等、健全育成に係る取組を推進する。
 - ③ 基本方針10にある「これからの教育を担う優れた教員の確保・育成」の実現のため、リーダー研修の実施や教職員による提案型の経営参画を促す。
 - ④ 基本方針11にある「学校における働き方改革等の推進」の実現のため、教職員の意識改革・職場風土改革として、教職員が心身共に健康で、やりがいを感じながら職務に取り組める環境を整備する。
 - ⑤ 基本方針12にある「質の高い教育を支える環境の整備」のため19年経過した校舎のメンテナンスやICT機器等の更新等を計画的に実施する。

III 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

【学校経営・組織マネジメント】

今年度の取組目標	具体的な方策
1 働き方改革や学校組織マネジメントを意識した学校経営	① マンパワーに頼ることなく、組織（チーム）として課題解決に向けた仕事ができるような計画的な人財育成と人財配置（人事異動）を実施する。 ② データ・ファクト・ロジックに基づいた学校経営・校務分掌の推進 ③ 効率的な予算編成並びに執行（選択と集中） ④ 働き改革の具現化として、「無減代（無くす・減らす・代用する）」を意識したマネジメントを行う。 ⑤ 働き方改革により夏休完全消化、有給休暇15日以上を取得する。
2 Tokyoスマート・スクール・プロジェクトの実現	① 費用対効果、時間対効果を考えた教育活動を行うために、Microsoft Office365等のデジタルを活用した分掌業務等の実施。 ② 給与明細の電子化、各種文書のはんこレス、電子起案の推進

3 人財育成	① 若手教員を組織的に学校全体で育成を図る。 ② 主任教諭選考並びに管理職選考受験候補者を意識的に育成する。 ③ 校内研修の充実を図り、服務事故防止や教職員のマネジメント力等の育成を図る。
--------	--

【学習活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
4 「東京型教育モデルの実現」や学習指導要領に対応した授業展開	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験から脱却した主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実践 ② 個に応じたきめ細かい指導のため、小人数展開授業の実施 ③ Brush Up Program 期間や長期休業期間中等における補習・補講の充実

【進路指導】

今年度の取組目標	具体的な方策
5 地域や関係機関との連携とキャリア教育の充実	① 地域企業と連携したインターンシップの充実 ② キャリアガイダンス、講演会の充実 ③ 資格取得の奨励 ④ 全教員による面接指導の実施等、進路活動支援策の充実 ⑤ ハローワークと連携した求職活動の支援

【生活指導】

今年度の取組目標	具体的な方策
6 SNSの適切な利用促進に関する指導の徹底並びに体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① 望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNSルール」の徹底を図る。 ② いじめ・体罰に関するアンケートを年3回実施するとともに、特に部活動において体罰を根絶する体制を構築する。 ③ アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに開催し、初動対応によって重大事案にならないようにスクールカウンセラーを含めた全教職員で組織的な対応を実施する。

【特別活動・部活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
7 「Tokyo Active Plan for students」を踏まえた体力向上	① 体育の授業や体育的行事、部活動の充実により体力テストの結果を向上させる。 ② 健康増進と生涯スポーツに親しむ姿勢を育成する。

【安心・安全な環境作り】

今年度の取組目標	具体的な方策
8 心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	① 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。 ② 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。 ③ スクールカウンセラーや養護教諭と連携を図り、定期的な教育相談委員会を実施することで、生徒のメンタル面でのサポートを行う。 ④ アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を校内で共有し、エピペン®やAED研修等、危機管理に努める。 ⑤ 生徒のメンタル面における小さなサインを見逃さず、迅速かつ組織的な対応を行うとともに、セーフティー教室の一環として、薬物乱用防止や自殺防止対策として、SOSの出し方に関する教育を推進する。 ⑥ 児童相談所や警察等と連携し、家庭内での虐待が予想される生徒の安全を確保する。

【募集・広報活動】

今年度の取組目標	具体的な方策
9 中学生・在校生・保護者に向けた広報・募集活動	① 学校ホームページ以外にもインスタグラム等のSNSを通じて本校の特色やイメージを提示する等、中学生目線にたった募集活動を実施する。学校情報を適宜ホームページ、インスタグラムに掲載等、広報活動を充実させる。 ② 在校生やその保護者向けにHPやSNSに適切な内容を随時掲載する。

【経営企画室体制】

今年度の取組目標	具体的な方策
10 質の高い教育環境の整備(適切な予算執行)	① 働き方改革の一環として、「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ICTを最大限活用した業務遂行をする。 ② 教員との連携により、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を図る。 ③ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。 ④ 同じ敷地・校舎内にある葛飾総合高校と一体化した予算編成並びに執行を行う。

(2) 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標
生徒・保護者満足度	学校評価アンケートとして、生徒の学校満足度(肯定的評価) <u>85%以上</u> 保護者の学校満足度(肯定的評価) <u>85%以上</u>
キャリア教育の充実	① 進路決定率 <u>100%</u> ② 各種資格・検定試験合格者数 <u>のべ20名</u>
募集対策の充実	① ホームページの1日当たりのアクセス数 <u>50回</u> ② インスタグラム、ホームページの更新回数 <u>合計80回</u>
Tokyo スマートスクールプロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 暗記中心、チョーク&トークのパッシブな授業形態や過去の成功体験からの脱却した主体的・対話的で深い学びの授業実践 全教職員による実施 <u>100%</u> ② 校内Wi-Fiを活用したICTによる全教職員による授業実践 <u>100%</u> ③ 全教職員によるOffice365 Teamsの活用実践 <u>100%</u> ④ 電子起案率 <u>100%</u> ⑤ 給与明細の電子化率 <u>100%</u>
働き方改革の実現	① 教職員の夏休消化率 <u>100%</u> ② 教職員の年次有給休暇15日以上取得率 <u>100%</u> ③ 各月の残業時間45時間超の教職員数 <u>0名</u> ④ 全教職員のテレワーク取得率 <u>100%</u>
教育環境の整備	① トイレの洋式化率 <u>100%</u>